

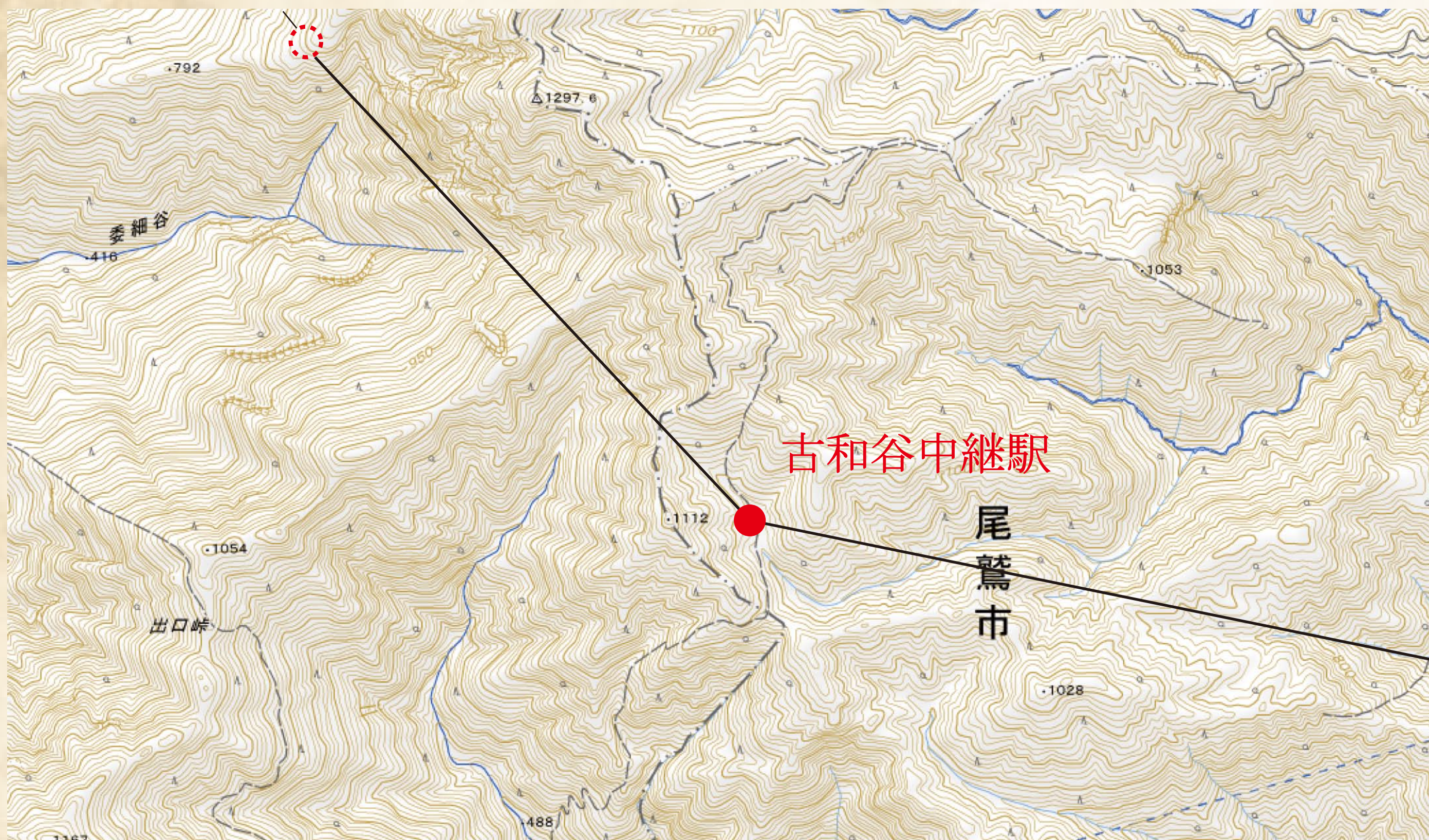
こわたに 古和谷中継駅



古和谷中継駅

回収出来なかった機器類

国土地理院の承認を得て切り取り複製して使用しています

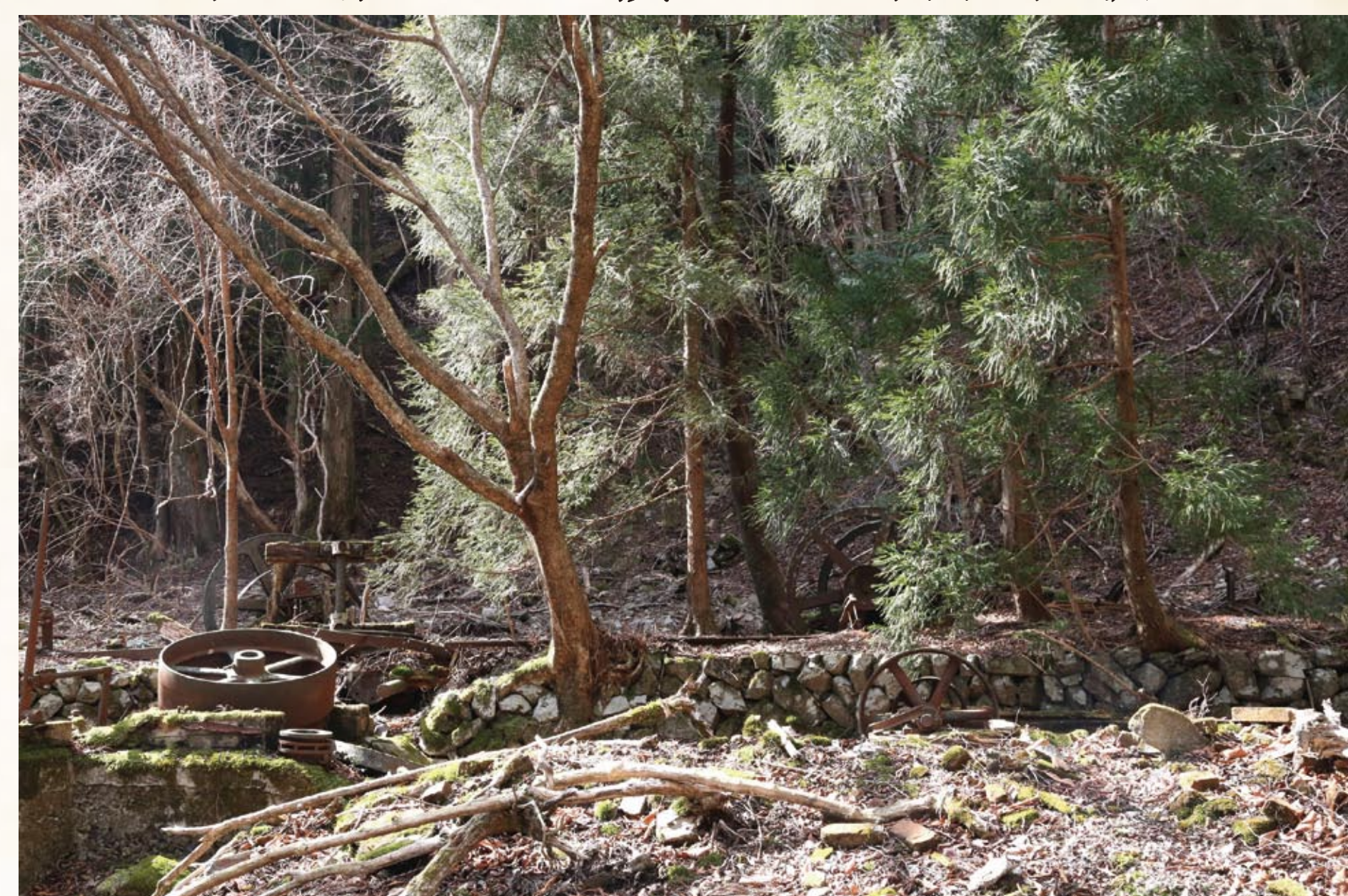


北山索道の中継駅で最も標高の高い場所にある古和谷駅。ここには65馬力の蒸気機関を設置し、平谷駅間及びキョラ谷駅間を運転していた。現在、この駅跡には回収できなかった多くの機器類が残されている。動力駅ならではの運命であろう。ひとつひとつの機器類は大きく、しかも重量物である。谷を挟んだ対岸には作業員の宿舎跡と思われる場所があり、茶碗や釜など、生活物資が散乱している。

平谷方面は山の斜面を溝状に掘削した切通しになっている。さらに平谷方面には索道のワイヤーロープも回収されることなく残っている。



谷に沿って石積された古和谷駅



大きな機器類が残されている



平谷駅方面は切通しとなっている

これは驚き！



大台ヶ原の牛石ヶ原に建つ神武天皇像

うしいしがはら
大台ヶ原の牛石ヶ原には熊野灘を眺める
じんむてんのう
神武天皇像が建つ。大台ヶ原の開山の父と
しんしゅうきょうふくじゅ
言われる神習教福寿大台教会長の古川嵩が
かさむ
銅像の建設を推進し、昭和3(1928)年に据えられた。この銅像の運搬に北山索道が使用されたことはあまり知られていない。
ちゅうぞうしよ
約4,500 kgの本体は大阪の大谷鑄造所で造られ尾鷲まで船で運ばれた。6分割された銅像は尾鷲停車場から古和谷駅まで索道で運ばれたが、重みでワイヤーがたわみ木をなぎたおしながら運ばれたとも言われる。運搬にはおよそ80日を要した。